



ご紹介

1931 ポロ・クラブ

ウォッチズ&ワンダース ジュネーブで初めて明かされる
2025 年の年間テーマ

概要

- ・ レベルソの誕生：アイコンの原点に命を吹き込むストーリー
- ・ 全 4 章で語られるストーリー：90 年以上にわたるレベルソのインスピレーション溢れる旅
- ・ 没入型ブース：クラフツマンシップ、知識の旅、新しい美食体験への祝福

2025 年、ジャガー・ルクルトは、レベルソのアイコンックなタイムピースの起源であるポロに敬意を表し、「1931 ポロ・クラブ」を発表します。レベルソが誕生した当時の、貴族の邸宅の壮麗な厩舎でポロ競技が行われていた場所を再現した没入型ブースなど、年間テーマである「1931 ポロ・クラブ」がウォッチ&ワンダース ジュネーブ 2025 で初めて実現します。

ジャガー・ルクルトは、「1931 ポロ・クラブ」でアイコンの原点を称え、1930 年にインドのポロ競技場で誕生したレベルソの起源と、それに先立つ変革の 10 年間のルーツを辿ります。1920 年代は、「狂騒の 20 年代」、「ジャズ・エイジ」「les années folles (クレイジーな年代)」と呼ばれ、社会と文化の変化、技術の進歩、経済成長のめくるめく時代でした。アールデコ デザインのムーブメントが生まれ、カリスマ的な「スポーツ・ジェントルマン」やポロ競技に象徴されるように、ファッショナブルなレジャーを求める形でスポーツが台頭しました。

ポロは、当時インド、イギリス、アルゼンチン、アメリカといった国々で社会の礎となっていました。インドを訪れたスイス人実業家セザール・ド・トレーはそうした環境に身を置き、そして、試合に熱中するイギリス陸軍将校たちから、その過酷な環境に耐える時計を製作するよう依頼を受けました。ヨーロッパに戻ると、ド・トレーはジャック＝ダヴィド・ルクルトと協力し、そのコンセプトを実現させました。そしてジャガー社とのつながりを通じて、フランスの工業デザイナーであるルネ＝アルフレッド・ショヴォーにケースとその反転式機構の設計を任せ、レベルソが誕生しました。レベルソは 1931 年以来、オリジナルのデザインとプロポーションに忠実であり続けながらも、アールデコ調のラインとバランスの取れた美しさを保ちながら、常に進化を続けてきました。1990 年代に入ると、ジャガー・ルクルトは高度な複雑機構を取り入れるようになり、技術的な洗練度がさらに高まりました。



原点に命を吹き込む比類なきストーリー

世界の豊かな体験を提供するウォッチズ&ワンダーズで披露されるブースは、ポロ競技がプライベートに行われていた貴族の邸宅の立派な厩舎のデザインからインスピレーションを得ています。レベルソのさまざまな世界がブースの外周に設けられたスペースで紹介されており、厩舎で見られる馬匹運搬車をイメージしたデザインが施されています。オーク、石、メタルなどの天然素材を使用することで、馬に敬意を表した特別な世界を彷彿とさせます。力強い建築、すっきりとしたライン、落ち着いたカラーパレットは、1931年に一世を風靡したアールデコ様式にもさりげなく触れています。

建築的なレイアウトが視線を集めるブース中央では、高さ6メートルの壮観な馬が空間を見下ろしています。LEDによるボリュメトリック技術を駆使して作られた立体的な「彫刻」は、360度移動しながらホログラフィック効果を生み出し、その美しさと迫力をアニメーションで表現。レベルソの誕生を物語る3分間のショーが30分ごとに行われ、暗いブースの中でドラマチックな効果が高められています。

3つのレベルに分かれたブースのそれぞれのエリアでは、実際に様々な体験を通してレベルソのストーリーをより深く知ることができるほか、新たに発表されたタイムピースもご覧いただけます。体験や知識を深めたい方にはガイド付きツアーをご用意しています。

4つの章で構成されたインスピレーション溢れるストーリー

長年愛され続ける稀有なデザインのレベルソは、絶えずその姿を変えてきました。常に進化を遂げながらも原点のスピリットを守り続け、単なる時計以上の存在になることで、真の意味でのアイコンとしての評価を得るようになりました。ウォッチズ&ワンダーズでは、ジャガー・ルクルトがレベルソのストーリーを4つの章で紹介します。

アイコンの物語では、レベルソが1931年にスポーツウォッチとして誕生してから、文化的アイコンになるまでの変遷を辿ります。社会が劇的に変化した時代に発表されたその独創的なデザインは、瞬く間に流行に敏感な人々の共感を呼び、時代の憧れを決定づけました。1960年代、アールデコの人気が下火となったことを理由に製造は中止されましたが、レベルソはアールデコ様式への再評価と歩調を合わせるように1975年に復活を遂げました。

1980年代、レベルソの時代を超越したエレガンスとステータスシンボルとしての魅力は、磨き抜かれた洗練を求める時代の嗜好に完璧にマッチしていました。1991年に60周年を迎えたレベルソの転機になったのは、機械式複雑機構を初めて搭載したレベルソ・ソワサンティエムです。この画期的な出来事により、レベルソは不朽のコレクションへと変貌を遂げ、21世紀のアイコンとしての地位を確固たるものにしました。

スタイルとデザインの物語は、反転機構を収めるために設計され、特許を取得した長方形のケースで幕を開けます。そのケースは、アールデコの原則を体現する洗練された長方形のフォルムへと進化しました。



当初、スチール製でブラックダイヤルだったレベルソは、発表から 1 年を待たずして、バトンインデックス、カラーダイヤル、ゴールド製ケースのほか、ブレスレットやペンダント、またハンドバッグのクリップとしてデザインされた女性用の小型モデルのバリエーションを展開するようになりました。

90 年以上にわたり、サイズや素材に数え切れないほどの改良が加えられてきましたが、水平に配されたゴドロン、三角形のラグ、完璧に一体化した回転式ケースなど、デザインの核となる要素は当時のままです。時代を超越したデザインを備えたレベルソは、長年愛され続けるそのデザインで、世界で最も有名な腕時計の 1 つとなりました。

革新の物語は、ダイヤルと針を保護するために設計された革新的な長方形の回転式ケースから始まりました。1931 年、レベルソは独特な長方形のケースで、高級時計における革新と評価されました。ケースの形状に合わせたキャリバーを搭載し、衝撃や湿度、経年劣化からキャリバーを保護するために専用のケースリングがセットされていました。

レベルソは 1931 年以来、オリジナルのデザインとプロポーションに忠実であり続けながらも、アールデコ調のラインとバランスの取れた美しさを保ちながら、常に進化を続けてきました。

1990 年代に入ると、ジャガー・ルクルトは高度な複雑機構を取り入れるようになり、技術的な洗練度がさらに高まりました。クォーツ危機の後、ジャガー・ルクルトはこのタイムピースと共に洗練された時計製造の専門技術を復活させ、複雑さを増す機構に対応する長方形ムーブメントの設計という難題を乗り越えました。

この時期の重要な作品：

- レベルソ・ソワサンティエム（1991 年）
- レベルソ・トゥールビヨン（1993 年）
- レベルソ・ミニッツリピーター（1994 年）
- レベルソ・クロノグラフ・レトログラード（1996 年）
- レベルソ・ジオグラフィック（1998 年）
- レベルソ・カンティエーム・パーペチュアル（2000 年）

この 10 年の間に、レベルソ・デュオ（1994 年）とレベルソ・デュエット（1997 年）は、ケースバックに 2 つ目のダイヤルを導入しました。

レベルソ・セプタンティエム（2001 年）やグランドコンプリケーション・トリプティック（2006 年）といった記念モデルはさらに限界を押し広げ、ジャイロトゥールビヨン 2（2008 年）とレベルソ・トリビュート・ジャイロトゥールビヨン（2016 年）では 2 軸のフライングトゥールビヨンを披露しました。2012 年にはミニッツリピーター・リドーが発表され、2021 年にはレベルソ ハイブリス・メカニカ キャリバー 185「クアドリプティック」が、4 つのダイヤルに 11 の複雑機構を搭載するという比類なき偉業を成し遂げました。

クラフツマンシップの物語では、芸術性を表現するキャンバスとしてのレベルソの進化を紹介します。1930 年代以降、レベルソには、細密画やジェムストーン、エングレービング、エナメル装飾が施さ



れました。細密画が施されたモデルは、アジア、特にレベルソの発想の原点であるインドで特に尊ばれてきました。最も初期の依頼では、カプールタラーのマハラジャが妻の肖像画をエナメルで描いた作品を 50 本注文し、それによってエナメルを施したレベルソが初めて誕生しました。ジャガー・ルクルトが制作した同様の 1936 年の作品には、現在紛失状態にある、トリプラ州のマハラニ（王妃）、カンチャン・プラヴァ・デヴィと思われる肖像画が描かれたモデルもあります。ダイヤルを保護するために設計されたメタル製ケースバックの余白部分は、やがて芸術性を高めるための創作材料となり、レベルソを真の芸術作品へと変貌させました。

20 世紀半ばに伝統的な装飾工芸が衰退していく中、1990 年代に機械式時計製造が復活したことで、こうした技術への関心が再び高まりました。レベルソはその保存に重要な役割を果たし、1996 年にはグラン・フー・エナメルを採用した初の現代的レベルソが誕生しました。

2016 年、ジャガー・ルクルトはメティエ・ラールTM工房を設立し、ジュエッサー、エナメル職人、エングレービング職人、ギョーシェ彫りの専門職人を専用の工房に集めました。このコラボレーションによって、ますます複雑で革新的な装飾が可能となり、芸術的な専門技術を披露するレベルソの名声は確固たるものとなりました。

2025 年新作レベルソ

ウォッチズ&ワンダース ジュネーブ 2025 にて、ジャガー・ルクルトはレベルソ コレクションに 9 つの新作モデルを発表します。新しくデザインされた既存モデルのからまったく新しいキャリバーまで、新作タイムピースは、レベルソのストーリーの 4 章それぞれを表現しています。

技術革新における役割の点からレベルソを称える新作のレベルソ・トリビュート・ミニッツリピーターは、今までにない一体型ムーブメントのキャリバー953 を搭載。裏面にオープンワークが施されたこのムーブメントは、7 つの特許を取得しています。レベルソ・トリビュート・ジオグラフィックは、ステンレススチール製と 18K ピンクゴールド製の両方にキャリバー834 を搭載。レベルソ・トリビュートに初めてワールドタイムの複雑機構を導入することで、特許を取得したグランドデイト表示ケース（特許 CH715152）と共に、長方形のケースにワールドタイムを表示する革新的な解決策を提供します。2023 年に発表されたレベルソ・ハイブリス・アーティスティカ キャリバー179 は、今回 18K ホワイトゴールド製ケースで登場します。

レベルソ・トリビュート・エナメル「シャー・ナーメ」シリーズは、レベルソの壮大な芸術的解釈から生まれた 4 つのウォッチコレクションとして、ペルシャで最も有名な叙事詩『シャー・ナーメ』の挿絵を小さく再現しています。エナメルが施されたケースバックは、ペルシャ細密画の技を通して、今年のテーマの中心にある馬に敬意を表しています。また、芸術的技巧も披露され、新たに解釈されたレベルソ・ワン「プレシャスフラワー」とレベルソ・ワン「プレシャスカラース」の 2 つのモデルでは、グラン・フー・エナメル、ダイヤモンド、ラッカーがさまざまな組み合わせで輝きを放ちます。

レベルソのデザインの汎用性とタイムレスな現代性を際立たせた新しい美的表現、レベルソ・トリビュート・ノナンティエム「エナメル」は、裏面のエナメル装飾とサンレイ仕上げを施したグレー



ダイヤルが特徴です。ヴィンテージの魅力と現代的なエレガンスを融合させた **18K ピンクゴールド製 レベルソ・トリビュート・モノフェイス・スモールセコンド**は、ピンクゴールド製ミラネーゼブレスレットを備え、ダイヤルにはゴールドにマッチしたグレイン仕上げを施しています。

レベルソの初期モデルのデザインに敬意を表し、**2016** 年にデザインされたレベルソ・トリビュートは、バトンインデックス、ドーフィン針、レールウェイミニッツトラックといったシンプルなダイヤルを特徴に、ケースの直線的なデザインをより際立たせています。**2025** 年、ジャガー・ルクルトは、新しいデザインで仕上げた**レベルソ・トリビュート・デュオ・スモールセコンド**の 2 つのバリエーションを発表します。ステンレススチール製ケースを採用した両モデルは、デザインを一新した裏ダイヤルを備え、一方の表ダイヤルは鮮やかなブルー、もう一方のダイヤルはピュアブラックに彩られています。

クラフツマンシップと知識の旅を祝う

ブースのあちこちに設けられたスポットでは、熟練の職人がレベルソのアイコンの製作に不可欠な 4 つの重要な技術の実演を行います。

- **修復**：マニファクチュールの修復工房の時計職人による、時計の修復に必要な特殊技術の実演
- **エナメル加工**：マニファクチュールのメティエ・ラールTM工房のエナメル職人による、ジャガー・ルクルトで実践されている 4 種類のエナメル技法の実演
- **イノベーション**：リサーチ&イノベーション部門の製作者による、プロトタイプや計測の表示を通した、ミニッツリピーターの複雑さの紹介
- **カーサ・ファリアーノ**：世界的に有名なポロブーツのメーカーであるカーサ・ファリアーノの一族の人々が、アルゼンチンからジュネーブを訪れ、手作りのストラップを製作する多くの工程を実演。特許を取得したハイブリスのトリプルフォールディングバックルを展示。

鑑賞ルームでは、ジャガー・ルクルトの完全一体型マニファクチュールで習得された **180** の技術をご覧くださいことができます。そこでは、マニファクチュールの舞台裏に潜入し、さまざまな時計製造技術を職人自身の視点から語るビデオシリーズ「イン・ザ・メイキング」を紹介します。

ブースの上階にはアトリエ・ド・アントワヌ専用デザインされた特別なスペースが設けられ、**2025** 年の体験型ディスカバリー・ワークショップのプログラムではレベルソに焦点が当てられます。このダイナミックでインタラクティブなセッションでは、参加者はめったに触れることのできないレベルソのアーカイブの資料を見ながらインサイドストーリーを深く理解し、マニファクチュールの専門家の指導の下、レベルソのケースの組み立てに挑戦します。ディスカバリー・ワークショップは予約制で、どなたでもご参加いただけます。

来場者は、レベルソに関するアトリエ・ド・アントワヌのディスカバリー・ワークショップやブースの散策後、参加型のインタラクティブなクイズ、アトリエ・ド・アントワヌ・パーシュートで知識を試すことができます。



カフェ 1931 が贈る新しい美食の冒険

「メイド・オブ・メーカーズ」プログラムの最新コラボレーションとして、ジャガー・ルクルトは才能あふれる若きチョコレート職人マチュー・ダヴォワンスに、ポロの世界にインスパイアされた新しい美食体験の創作を依頼しました。カフェ 1931 では、さまざまな驚きの感覚をお届けし、認識を覆す 4 つのチョコレートをご賞味いただけます。マチュー・ダヴォワンスが特別に作り上げたドリンクが引き立てるチョコレートは、型にはまらないテクスチャー、思いがけないフレーバーの大胆なブレンド、目を見張るような視覚表現によって表現され、チョコレートガストロノミーに対する彼の実験的なアプローチを示しています。

ウォッチズ&ワンダーズは 2025 年 4 月 1 日から 7 日までジュネーブで開催され、4 月 5 日（土）から 7 日（月）まで一般公開されます。

ウォッチズ&ワンダーズ ジュネーブ 2025 の一般当日券は、以下のリンクよりオンラインでご購入いただけます。 <https://www.watchesandwonders.com/en/geneva-2025>

1931 ポロ・クラブについて

レベルソの原点を称える 1931 ポロ・クラブは、その誕生にインスピレーションを与えたポロの世界に敬意を表し、当時のスピリットを表現しています。このユニークなタイムピースが誕生した頃の 10 年間は、空前の好景気と技術革新の時代であり、衣服や音楽に新たな流行が生じ、アールデコという、まったく新しい芸術運動を生んだ社会的にも文化的にも激変の時代でした。スポーツが運動という位置付けからレジャーへと進化し、スポーツクラブが世界中で社会生活の拠点となったのもこの時代でした。このような環境の中、1858 年から 1947 年の英国統治時代のインドで、ポロをプレーする軍人たちによって、ポロ競技場の過酷な環境に耐える時計を制作してほしいという要望が出されました。実用的なニーズに対するユニークなソリューションであったレベルソは、今日、アールデコデザインのアイコンとなっています。

レベルソについて

1931 年、ジャガー・ルクルトは、20 世紀のデザインのクラシックとなるタイムピース、レベルソを発表しました。ポロの激しい試合にも耐えられるように作られており、すっきりとしたアールデコ調のラインと特徴的な反転式ケースを備えたこの時計は、瞬時に識別することができます。誕生から 90 年間、レベルソはアイデンティティに妥協することなく自らの存在を常に変化させてきました。79 種類以上のキャリバーに加え、39 件の特許を取得。何も描かれていないメタルの裏面はクリエイティブな表現のためのキャンバスとなり、エナメル、エングレービング、ジェムストーンなどで装飾が施されました。レベルソ誕生から 90 年以上経った今日でも、変わることなく、その誕生にインスピレーションを与えた現代の精神を象徴し続けています。



ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニファクチュールは、**1,400**を超えるキャリバーの制作と **430** 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、**190** 年以上にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。**180** 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさと独特で控え目な洗練とを組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。

jaeger-lecoultre.com